

# 車いすで行く♪月の沙漠

## 滝口 仲秋



### バリアのなくなった海岸の遊歩道

わが町(千葉県御宿町)には、白い砂地と青松が2kmに及んで続く美しい海岸がある。童謡「月の沙漠」の発祥地だ。

けれども、海岸線に沿って走る町道「記念館通り」にある幅広い遊歩道は、高齢者や障害者、ベビーカー利用者などの交通弱者にとっては難儀な場所だった。まず、月の沙漠記念館前から遊歩道に上がるのに35cmの段差があった。また、記念館前はラクダ像に通じる橋(砂丘橋)に向けて階段状になっていた。

これでは車いすで自走などできるものではない。解決策を町当局に再三、お願いに上がったせいか、時代の趨勢か、前記のバリアを無くすとのこと。町の担当課長は、工事の始まる時点で要望を聞いてくれた。

それから、散歩がてらによく、工事の進捗状況を見せてもらった。工事請負人は地元業者だけに気楽に話に乗ってくれた。

数か月後、町担当課長から工事の出来栄を見てほしいと誘いがあった。北風が後ろから追いかけてくる寒い日だったが、記念館からラクダ像に向かう横断歩道の前で、真新しいアスファルト面が迎えてくれた。

未知の世界に踏み込めた嬉しさで、不具合の発見という任務をしばし忘れて、真新しいアスファルト面を行ったり来たり。階段を削ってできたスロープの先には、紺碧の網代湾が迫っていた。

カナリヤ椰子のたなびく遊歩道を進むと、視界一面に青い空、紺碧の海、白い砂浜が広がる。その中にポツンとラクダ像が存在する。一望千里の世界だ。全長1.2kmの遊歩道を端から端まで、車いすを漕ぐ。遠くから波と戯れるカモメの鳴き声が耳に届く。春近い北風を思う存分吸い込み、思わず両手を上げ、ポーズを取った。

### 表 精神的自立への三層八過程

A 落ちこみ	1. 衝撃期…重度障害者になり、ショックを受けました
	2. 脱力期…仕事を辞め、体から力が抜けてしまいました
	3. 厭世期…気がめいり、生きているのが厭になりました
B 立ち上がり	4. 内省期…深く自分をふりかえりみようとなりました
	5. 転換期…できない時は、発想の転換をしてみました
	6. 自立期…他人の援助を受けず自力で行動しました
C 立ち直り	7. 利他期…他人に利益を与えられることを知りました
	8. 感謝期…心から謝意を表す気持ちになりました

▲ 滝口仲秋著『立てない。座れない。歩けなくなって』(本の泉社、p.12)

### 福祉マップ作りを生きがいに

ぼくは、脊髄腫瘍(34歳発症)が原因の下半身完全麻痺の後期高齢者(現在78歳)だ。車いすユーザー歴は20年近くになる。表の三層八過程を経て、精神的自立ができたと思自負している。

第三層「立ち直り」の利他期、感謝期になると、「行き先にバリアがあっても何とかそれをクリアしたい」という気力が前面に出てきた。でも気力だけではクリアできない施設があった。そんな時、前進を可能にしてくれる情報や支援があると安心できた。

地元にもそんな情報を提供できる「福祉マップ」があれば、交通弱者の手助けができると思い、2001(平成13)年度から近隣市町村の福祉マップを作っている。今ではこれが生きがいだ。

マップ作りは、他人を利するのみでなく自分にも利する所が多かった。自分にもボランティアもでき、社会の一員として認めていただいたような気がしてならない。またマップの完成は、多くの人たちの援助抜きには考えられないことだった。

町当局は、公益的施設の改修時に、交通弱者の希望を取り入れてくれている。今後は、より多くの町民が、「月の沙漠」という和製メルヘン街道を闊歩できるだろう。

※下記のホームページで滝口さん作成の「福祉マップ」をご覧ください。

<http://www.geocities.jp/takinaka1022/>



▲ 空と海と砂と(千葉県・御宿町)